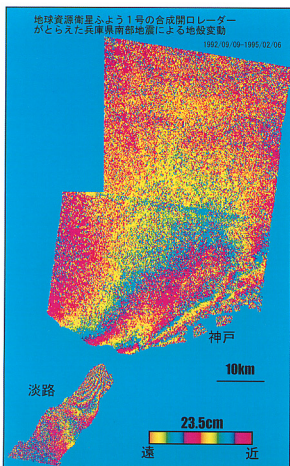
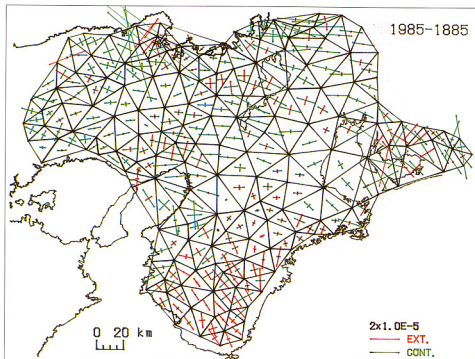


兵庫県南部地震 前後の地殻変動

国土地理院では、兵庫県南部地震の発生に伴って各種の測地測量を行った。測地測量からも、複雑な断層運動が起きたことが明らかになった。

(国土地理院：

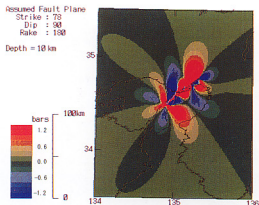
橋本 学
多田 亮
村上 亮
藤原 智
斉藤 隆)



国土地理院 宇宙開発事業団

1. 明治以来、地震発生10年前までの約100年間の近畿地方の水平歪、内陸部では東西の圧縮歪が卓越しているが、兵庫県南部地震の震源域周辺では圧縮歪と同程度の大きさの伸張歪が見られた。

2. 地球資源衛星ふよう1号の合成開口レーダーにより捉えられた兵庫県南部地震に伴う地殻変動の干渉画像、衛星と地表との距離変化を干渉縞で表している。縞の込んでいるところで変動が大きい、地殻変動が神戸の北方まで及んでいる。また、淡路島の野島断層沿いには大きな変動が現れている。



3. 測地データから推定した断層モデルから予想される破壊の応力の変化、ほぼ東西 (N 78°E) 走向の鉛直断層での右横ずれ運動が起きやすくなったかどうかを示す。赤いところが応力の増加域。